

(写真・文 吉岡義雄)

オオトビサシガメ

(学名: *Isyndus obscurus*)

【半翅目サシガメ科】



▲ 日本のサシガメの仲間では最大級で、成虫は全長2.7cmに達する



▲ 若齢幼虫は派手な体色をしている



▲ 獲物の体内に消化液を注入し、溶けた中身を嚼って食べる

オオトビサシガメは、国内では本州、四国、九州に広く分布しています。山地に生息する樹上性のサシガメで、全長2.7cmにも達する大型種です。主に小型の節足動物を捕食し、獲物を捕らえる時は「だるまさんがころんだ」を思わせるゆっくりとした動きで接近し、鋭い針状の口（口吻）で毒を注入して瞬く間に仕留めます。

オオトビサシガメは、冬になると越冬のために家屋に侵入することがあります。しばしば大量に侵入するクサギカメムシに比べると不快な臭いは強くありませんが、不用意に掴むと口吻で刺されることがあります。強い痛みがあるため注意が必要です。

只見では、「くさむし」ことクサギカメムシに対して、本種は「おすくさ」、「おすくさむし」あるいは「おとこくさむし」と呼ばれます。この名前の由来は定かではありませんが、一説にはクサギカメムシを雌、オオトビサシガメを雄として認識されていたためと考えられています。なお、越冬の前にはオオトビサシガメがクサギカメムシを捕食することが知られています。そのため、オオトビサシガメは厄介な衛生害虫としての顔と益虫としての顔を併せ持つと言えます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催しています。詳しくは只見町ブナセンター（TEL 72-8355）までお問い合わせください。

企画展「只見の猛禽類」

会 期：2021年12月4日(土)～2022年4月4日(月)

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー